

福島県浜通りにおける シハロホップブチル抵抗性ノビエの発生

福島県農業総合センター 浜地域研究所

部門名 水稻-水稻-雑草防除

担当者 吉川学、内野彰（農研機構）、岩上哲史（東京農工大学）、小林浩幸（宇都宮大学）、
菅野拓朗、佐藤弘一

I 新技術の解説

1 要旨

水稻栽培において、ノビエの防除に使用されるシハロホップブチルに対する感受性の低下が問題となっている。そこで、福島県浜通りにおける抵抗性ノビエの発生実態を把握するため、2024年に抵抗性検定を実施した結果、複数のほ場で本剤に対する抵抗性個体が確認された。

- （1）検定の結果、相馬市、南相馬市鹿島区、新地町のほ場から採取したイヌビエ、南相馬市原町区のほ場から採取したタイヌビエにおいて、既知のシハロホップブチル抵抗性系統と同程度の抵抗性を示す個体が確認された（図1、図2）。
- （2）シハロホップブチル抵抗性ノビエが確認されたほ場では、継続的に乾田直播栽培が実施されており、本剤と同一系統の除草剤（HRAC 1）が年1回以上使用されていた（表1）。

2 期待される効果

- （1）本成果は生産者に対して、シハロホップブチルの連用を避け、適切な除草体系を選択するための啓発資料として活用でき、水稻生産の安定化が期待できる。

3 適用範囲

- （1）市町村、JA、県関係機関

4 普及上の留意点

- （1）シハロホップブチル抵抗性ノビエに対して有効な除草剤成分は、中日本農業研究センター「シハロホップブチル抵抗性ヒメタイヌビエにおける多除草剤抵抗性と有効な除草剤（2015）」を参照のこと。
- （2）シハロホップブチル抵抗性ノビエの防除においては、特定の除草剤の連用が更なる抵抗性の発達を招く可能性があるため、異なる複数の除草剤を組み合わせた体系的な防除を実施すること。

II 具体的データ等

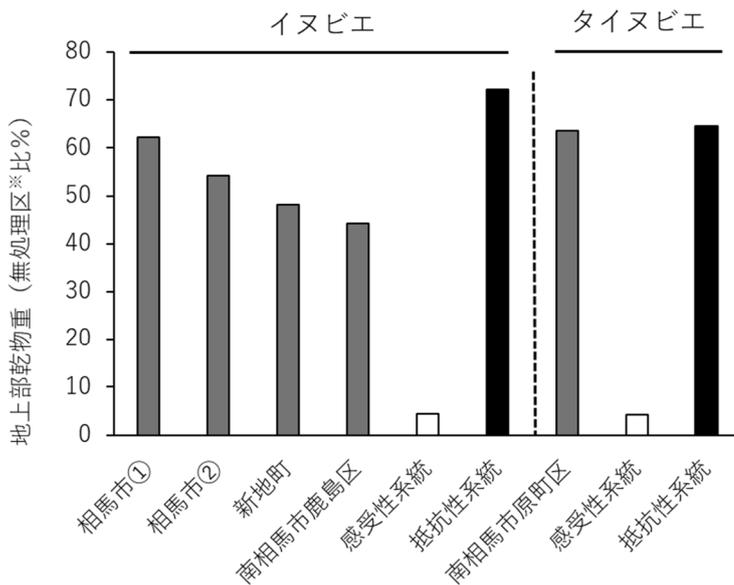


図1 2024年に採取したノビエの1/10,000aポット試験におけるシハロホップブチル反応

※無処理区：シハロホップブチル無処理区における当該ノビエ系統の地上部乾物重



相馬市① 南相馬市原町区

供試系統

感受性系統

図2 2024年に採取したノビエのシハロホップブチル反応 (1/10,000aポット試験、処理32日後、一部抜粋)

表1 抵抗性個体発生ほ場（いずれも乾田直播栽培）におけるシハロホップブチルと同一系統（HRAC1）の薬剤使用回数

雑草種	採取地	シハロホップブチルと同一系統の薬剤使用回数（回/年）
イヌビエ	相馬市①	3
	相馬市②	3
	新地町	1
	南相馬市鹿島区	1
タイヌビエ	南相馬市原町区	1

III その他

1 執筆者

吉川学

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和5～7年度

(2) 研究課題名 浜通りにおける除草剤抵抗性ノビエの発生実態調査〔植物調節剤の研究開発事業 公益財団法人日本植物調節剤研究協会〕

3 主な参考文献・資料

(1) 中日本農業研究センター「シハロホップブチル抵抗性ヒメタイヌビエにおける多除草剤抵抗性と有効な除草剤（2015）」

https://www.naro.go.jp/project/results/laboratory/narc/2015/narc15_s23.html